



「大きな成長」(合唱コンクール合唱委員長)

三年松組 浜 風彩

私は、今年度の合唱コンクールで合唱委員長を務めました。合唱委員になったのも今年度が初めてでした。私に委員長が務まるだろうか、不安な気持ちはありません。しかし、何もやらずに後悔するよりも、やって後悔した方が良く考えました。合唱委員長という大きな責任ある仕事を果たしたことで、私は一回り大きく成長することができたと思います。

合唱コンクールに向かって選抜合唱団の練習や、クラス練習などで忙しい日々を過ごしていきうちに気付いたことがあります。それは、まわりの人の助けです。私一人では問題を背負いきれなかった私を、周りの人がたくさん助けてくれました。時には励ましの言葉をくれたりと、ここには書き切れないほどです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

合唱コンクール当日で私がした一番大変だった仕事は、やはり合唱委員長としてのあいさつです。ステージ裏では、壁と睨みあい、何回も何回も練習しました。緊張のあまりじっとしてられず歩き回って練習することもありました。その時の緊張感を思い出すと、終わってしまった今でも震えています。

思い返せば忙しい毎日を送っていましたが、とてもやりがいのある仕事でした。長い人生の中では小さな一歩かもしれないですが、私にとっては大きな一歩となったと思います。

「合唱コンクールを通して」(三年生最優秀賞)

合唱委員クラス代表 三年松組 新関 美結

私は今回の合唱コンクールで、今まで以上に様々なことを学びました。その一つは団結力です。

初め私たちのクラスは、一人一人の音が小さく歌声もバラバラでした。「頑張ろう！」という気持ちは全員が持っているものの、なかなか合唱に活かせず、他のクラスより多い三十六人でしか出せない迫力とは程遠い状態でした。そこで、指揮者と合唱委員は、今まで以上に気合を入れて練習に励み、クラスの皆もそれに応えて、ほぼ無欠席で、毎日、朝と放課後に練習をしました。

だんだんと声が出てくるようになると、歌声以外のことにまで目がいくようになりました。そこで気がついたのは皆の表情が硬いということでした。これは簡単に解

決する問題ではありませんでしたが、皆でどうすればよいかを考え、「笑って！」「口角を上げる」などと書いた紙を貼ったり、笑ってほしいところで合唱委員が合図を出すなど工夫を凝らした練習をするようにしました。

こうして、私たちは全力で練習に取り組みました。練習最終日には達成感と一つになれた感動で全員が涙を流し、泣きながら本番でも頑張ることを約束しました。迎えた本番、全員が団結し一杯の合唱をした結果、最優秀賞を受賞することができました。今回のことを良い経験に、さらに良い団結したクラスになりたいと思います。

「たくさん人の支え」(優秀指揮者賞)

三年松組 石井 南

今年の合唱コンクールは、私たち中学三年生にとって最後の合唱コンクールとなります。私の指揮者としての目標は、クラスの全員が一致団結し、全員で思い出を作ることでした。このように言葉にするのはとても簡単ですが、実現させるには思っていたよりも努力が必要でした。

当日の発表はあつという間でしたが、クラスの皆が笑顔で歌っていたことははつきりと覚えていいますし、心が一つになっていくのを感じました。友達がたくさん励ましてくれたこと、家族が相談に乗ってくれたこと、先生方が協力してくださったことが私の力の源となりました。たくさん人の支えがあったからこそ指揮者をやり遂げられたと思います。心から感謝します。ありがとうございました。

「みんなと楽しくできたこと」(優秀伴奏者賞)

三年栗組 金子 愛佳

私は、今年の合唱コンクールで、伴奏者賞を頂くことができました。

昨年の合唱コンクールで伴奏者賞を取れなかった悔しい思いもあり、今年度は再チャレンジしてみようと決断し、伴奏を担当させて頂きました。私の目標では、とにかくみんなが歌いやすいような合唱の伴奏にするために、賞も目指して、頑張ろうというのが初めの目標でした。しかし、合唱の練習をしていくうちに、心に変化ができました。今年で最後の合唱コンクールでもあり、一人で伴奏を頑張るより、みんなと楽しくやりたいという思いが目標になっていきました。

私が今回の合唱コンクールで気づいたことは、伴奏者一人で頑張るより、一人一人みんなで力を合わせていくことでクラスを一つにすることができると感じたことでした。

「色々な思い」(優秀伴奏者賞)

三年菊組 増田 花音

今回私はピアノの伴奏者賞という素敵な賞を頂きました。とてもうれしかったです。

最初は伴奏することが難しそうだと自信が全くありませんでした。それと同時に、本番への緊張がありました。何もかもが不安のまま練習の時に伴奏することになりましたが、みんなのためにも頑張りたい、という気持ちもありました。そのため二つの工夫をしました。

一つはみんなにとって歌いやすい伴奏をすることです。どのような伴奏をすればみんなが歌いやすくなるのかを考えた結果が、ベースをしっかりと弾くことでした。しっかりと指揮を見てリズムがとれるようにたくさん練習しました。

二つ目は、指揮者としてしっかり伴奏を合わせることで、歌っている人は指揮者を見て歌っている、伴奏が合わせなければ合唱になりません。そこで私は伴奏曲を早い時期に覚え、指揮を見て伴奏を合わせることに努めました。伴奏者になって学んだことはたくさんありました。一番心に残っていることは、友達のために尽くす、ということです。今までは友達のために協力することはあっても、どこか「自分が」という面があったと思います。しかし、今回は自分の持っている力をすべて全て出さしめることができたことに対して、この賞を頂けたと感じました。

合唱コンクールを通して(二年生優秀賞)

二年桃組 伊地知 枝音

私は、合唱委員をつとめました。クラスをまとめていくうと思つたのですが、なかなかまとまらないクラスが不安でした。最初の頃は、練習を始めても全員が集まらなかったり、練習中も私語が多かったり、集中できない日がありました。しかし、本番に近づくにつれ、自分たちから声を掛け合って、準備をするように変わっていきました。みんなの気持ちの一つになっていくのを強く感じました。私は合唱委員としてうれしかったです。

「You raise me up」は、アルトもソプラノもハモルとこころがうまくできなくて何回も練習しました。ピアノと指揮が合わなくて大変でしたが、最後はうまくまとまってきました。

「With You Smile」は、最初はバラバラでしたが、練習をしていくうちにそろそろようになりました。

合唱コンクール前日と本番当日は、「練習も本番も二枚スマイルでやる気スイッチON」というクラスの目標に向かって、一人一人が歌うことができました。歌うことができたという達成感で舞台から降りるときには、皆が笑顔でした。クラスが一つに団結し、その結果として最優秀賞を取ることができて、とてもうれしかったです。

みんなのアドバイスで取れた賞(優秀指揮者賞)

二年栗組 近松 未悠

私は今回初めて指揮者をしました。私が優秀指揮者賞を取れたのは、アドバイスをしてくれたクラスメイトのおかげだと思っています。

最初私は、指揮が初心者のため、まったく上手く振ることが出来ませんでした。私は指揮者だからみんなが歌いやすいように指導をしなければいけないのにまったくそれが出来ませんでした。強弱はついてないし、切る位置もばらばらでした。今振り返ると、私はみんなが、「こうすると分かりやすい」などと声を掛けてくれたから優秀指揮者賞なんて取れなかったと思います。クラスのみんなからのアドバイスがあったからこそ取れた賞だと私は思います。

優秀伴奏者賞

二年栗組 中川 愛菜

合唱コンクールの練習の時、私はクラス全員が歌いやすいように音の強弱や速さを考えながら伴奏をしていました。

しかし本番当日、リハーサルになると緊張のあまり今まで考えながら弾いていた速さよりも倍の速さになってしまい、クラスの全員に迷惑をかけてしまいました。リハーサルを終えて自分の中で反省して、舞台上上がるまで不安と緊張が溢れていましたが、みんなから「大丈夫。一緒に頑張ろう！」と声をかけてもらい、励まされました。

私が優秀伴奏者賞を頂けたのもクラス全員のおかげなので本当に感謝しています。賞を頂くことができ、とても嬉しく思います。

優秀伴奏者賞

二年菊組 澤田 琴美

私は合唱コンクールでピアノをひきました。私は今ピアノを習っていないので今回も一人で練習をしました。そのためクラスの皆と合わせて練習したときも、間違えてしまうこともありました。だから、家で練習をたくさんしました。

合唱コンクールの前日、私は熱を出してしまい、早退をしました。だから、最後の練習で合わせることもできず、とても不安でした。

しかし、本番はみんなも声が大きくて、私もとても力強くひくことができて間違えもなかったことで終わつたときはとても安心しました。

伴奏者賞が発表される時は、まさか自分が選ばれるとおもっていませんでした。だから、名前を呼ばれた時はものすごく驚きました。とてもうれしかったです。

合唱コンクールを終えて（二年生最優秀賞）

一年桃組 渡辺 灯

中学校に入学して初めての合唱コンクールを終えた今、色々なことを思い出します。練習の時に、小さなトラブルが起きてしまったことも、今では良い思い出です。

練習を重ねるたびに、少しずつ声が大きくなり、クラス全体の雰囲気もよくなっていきました。そして、「これは最優秀賞が取れるかも」と思うようにもなりました。前日にみんなで『ガンバルぞー！オー！』と掛け声を掛け合ったとき、団結を感じ、とてもうれしかったです。

本番の舞台裏ではみんな緊張していましたが、舞台上では、みんな笑顔で、大きな声で一発懸命歌いました。私もみんなの声をもっと明るく大きくしようと、指揮をがんばることができました。合唱コンクールが終わった後は、やりきった達成感とみんなとの団結を感じ、すっきりとしたよい気持ちになりました。最優秀賞で選ばれた瞬間は、とってもうれしくて泣きそうになってしまいました。

来年の合唱コンクールでも指揮者になって、もう一度みんなを引っ張っていきたいと思います。今度は最優秀指揮者賞を狙いたいと思います。

優秀指揮者賞

一年菊組 矢澤 彩那

私のクラスは指揮者がなかなか決まりませんでした。私もやってみようという気持ちがあったけれど、なんだか恥ずかしかったので言い出せずにいました。しかし、担任の先生にやってみたらと言われてやってみることにしました。始めてみると、指揮は思った以上に難しく、どうしても動きが固くなってしまいました。姉の合唱コンクールのDVDを見たり、先輩に教えていただきながら何度も練習を重ね、クラスの皆にも応援してもらいました。少しずつクラスもまとまり、合唱自体も上手になっていきました。

残念ながら学年での最優秀賞はとれませんでした。しかし、クラスの皆のおかげで優秀指揮者賞を頂くことができました。

優秀伴奏者賞

一年菊組 草野 那月

私は初めて合唱コンクールに参加して、課題曲の伴奏を務めました。練習が始まったばかりの頃は、合唱コンクールをとっても楽しみにしていました。でも、伴奏は思っていた以上に難しく、本番にしっかりと伴奏をできるかとても心配になりました。家では失敗をせずに伴奏を弾くことができて、音楽の授業の時に何度か失敗をしてしまったりして、完璧に弾けるようになるまでとても苦戦しました。

合唱コンクール当日も、失敗せずに伴奏が出来るかな不安でした。そのせいか、あまりにも緊張し過ぎて何度か失敗してしまい、とても悔しかったです。そんな中、伴奏者賞をもらった時はとても嬉しかったです。クラス全員で朝や放課後の練習ができたこともとても良かったです。と思います。

優秀伴奏者賞

一年桃組 金子 桃菜

私は音楽が大好きです。しかし、ピアノにはとても苦しい思いがあります。それは、小学校の音楽会で、練習ではピアノを弾いていたのに、本番では失敗してしまっただけです。それからピアノにまったく触れていなかったのですが、夏休みに『Unlimited』を弾いてみると、とても楽しくなり、伴奏をやることにしました。

本番は、小学校のころの思いを忘れ、とにかく音楽を楽しむという気持ちで臨みました。その結果、とても気持ちよく、愉しく弾くことができました。ピアノを弾くきっかけになった、合唱コンクールに感謝したいです。練習は大変だったけれども、最優秀伴奏者賞を頂けてとてもうれしかったです。



※「たけのこ」は本校HPでも見る事が出来ます。HPトップ画面【文女-あやめ】をクリックし、次の画面左側下から3番目【一たけのこ】をクリックしてください。